

第2章
3 施策領域

中山間地域

あるべき姿(概ね30年後)

- 里山・里海に象徴される人と自然が作り出す中山間地域ならではの資産が、守るべき価値あるものとして、内外の人々により引き継がれる中で、地域への愛着と誇りの高まりが、将来への希望と安心につながり、心豊かに、笑顔で幸せな生活を営んでいると思う人たちが増えています。

目指す姿(10年後)

- 中山間地域ならではの資源や特性が再認識されるとともに、地域の価値ある資産として再構築され、大切に引き継がれています。また、その魅力や豊かさに共鳴し、地域に愛着と誇りを持つ内外の多様な人材が、将来への「夢や希望」を託す、様々なチャレンジを行っています。
- 地域に愛着や誇りを持つ人たちの一歩踏み出すためのチャレンジが次々と起こり、共感の輪が広がるとともに、地域に根差したリーダーが育ち、多様な人材のネットワークによって、地域資源を生かし、新たな価値を生み出す主体的な活動が展開されています。そこから、コミュニティの力の再生に向けて、誰もが必要に応じて活躍の機会を得られる地域運営の新しい仕組みが構築され、地域の課題解決につながる様々な取組が広がっています。
- 多様な企業や人材が、地域ならではの資源や基盤を生かして、新たな事業や経営発展にチャレンジし、働き続けられる環境が整いつつあります。
- 医療・福祉、交通などの日常生活の安心に直結する様々なサービスについて、デジタル技術を活用して効率的に提供するための仕組みづくりが進み、「スマート里山・里海」に向けたモデル的な取組が中山間地域全域で展開されています。とりわけ、交通アクセスについては、広域的な道路網と地域内の交通基盤が整備され、地域と都市を結ぶ広域幹線交通が維持されているとともに、新たな交通サービスの普及と地域の実情に応じた交通再編が進み、買物や通院等の日常生活の移動が確保されています。

指標

	現状値(R1)	10年後の目標値(R12)
人材プラットフォーム「ひろしま里山・チーム500」の登録人数	345人	1,000人
中小企業と外部人材のマッチングサポート機関を通じて外部人材を活用する中小企業数	—	320社
デジタル技術を活用した課題解決モデルの創出	—	10件以上 [普及展開 20件以上]
地域で支え合う新たな交通サービスを交通計画に位置付け、取組を進める市町村数	—	19市町

用語解説 コミュニティビジネス…地域の課題解決や地域資源の発掘・活用などをビジネスとして捉え、主に地域住民等が主体となり、地域活性化・社会貢献と、事業の自立・持続発展の双方を実現しようとするビジネス。
サテライトオフィス…都市部の企業等が本拠地から離れたところに設置する遠隔勤務のためのオフィスの総称。

目指す姿の実現に当たって考慮すべき課題

- 中山間地域の人口は、県全体を大きく上回るスピードで減少傾向が続いており、その傾向は、今後、更に加速していくことが避けられない厳しい現状に直面しています。
- 加えて、中山間地域は県全体に比べて高齢化率が高く、令和元年の高齢化率は、6市町において40%を超えており、地域コミュニティの基礎となる集落単位では、高齢化率が50%を超える集落が全体の4割以上を占めています。
- 高齢者が多い中山間地域においては、自然減を中心とした人口減少を今後も見込まざるを得ず、人口減少に伴う様々な制約等を踏まえた場合、地域によっては、一律の行政サービスを継続的に提供していくことが困難となることも見込まれることから、日常生活に必要なサービス機能の最適化を視野に入れた、安心して暮らせる持続可能な地域の在り方を検討する必要がある。
- デジタル化の進展は、中山間地域における物理的な距離のハンディや人材面での資源の制約による諸課題を「克服できる可能性」を秘めており、今後、地域においては、交通、医療・介護、福祉等の生活サービスの維持・確保に向けて、長期的な視点で、デジタル技術を暮らしの中にもどのように取り込んでいくかが重要な課題となります。
- また、そのための地域における自助努力を基礎にして、デジタル社会において中山間地域が潜在的な可能性を發揮し、持続可能な地域社会を実現していくためには、「デジタル」から生まれる、地域の枠を超えた新しい暮らしのモデルを、地域全体に横展開していく持続的な仕組みの構築が求められます。

目指す姿の実現に向けた取組の方向

- 1 人材の発掘・育成、ネットワークの拡大**
人材の裾野を拡大し、地域に根差した活動やコミュニティビジネスなどの活動の継続・発展を支援するとともに、地域において一歩前に踏み出すチャレンジを行っている様々な人材を発掘し、取組への共感の輪を広げていきます。
また、地域に住む人々を専らサービスを受ける客体として捉えるのではなく、ともに支え合い、地域の未来をつくる存在と捉えた持続可能な地域運営の在り方を検討し、地域において主体的に取り組む多様な主体の活動を後押しします。
- 2 新たな事業展開に向けたチャレンジ支援**
働く場所にとらわれないIT関連企業を中心とした企業のサテライトオフィスの誘致に向けて、首都圏等のIT企業と県内外における専門人材(エンジニア等)のマッチングの仕組みづくりに取り組みます。
- 3 中小企業の成長支援**
首都圏で広がりを見せている副業解禁等の動きを踏まえ、地域において外部人材の力を効果的に取り込むための支援機能を強化し、中小企業の新たな成長支援につなげます。
- 4 デジタル技術を活用した暮らしの向上**
デジタル技術を積極的に活用し、生活交通や医療・福祉、防災など、日常生活に直結する課題解決の取組モデルを創出するとともに、他地域への普及展開を図っていくための仕組みを構築します。
- 5 持続可能な生活交通体系の構築**
地域の実情に応じて、必要とされる生活交通の在り方を検討するとともに、デジタル技術を活用したMaaSなど、新たな交通サービスの導入に向けた支援を通じて、より持続可能性の高い生活交通への再編を促進します。
- 6 中心地と周辺地域等の連携を支える基盤整備**
中山間地域に住む人が、安全で快適な生活を享受できるよう、引き続き、地域拠点と集落等を結ぶ道路の整備やバス路線1車線区間の解消に向けた取組など、地域の実情に応じた効率的な道路整備を推進します。

MaaS…Mobility as a Serviceの略。出発地から目的地までの移動ニーズに対して円滑な接続等による最適な移動手段を提供するなど、移動を単なる手段としてではなく、利用者にとっての一元的なサービスとして捉える概念。